

- ・日本国憲法
- ・教育基本法
- ・学習指導要領
- ・東京都教育委員会の教育目標
- ・多摩市教育委員会の教育目標

学校教育目標

人間尊重の精神を基礎として、自ら学び考える力を身に付け、持続可能な社会の担い手として主体的に生きる人間としての資質・能力・態度を高めるために、次の目標を設定する。

○考えてやりぬく子
主体的に学び、高め合いながら考え行動できる児童

○明るく思いやりのある子
多くの人とかかわり、自他を尊重しながら行動できる明朗で心豊かな児童

○たくましくしような子
体力向上と心身の健康の保持増進に努める強い意志と体をもった児童

- 保護者の願い**
- ・基礎的な学力を身に付けてほしい。
 - ・よく考えて正しく判断できるようになってほしい。
 - ・人や自然に対して思いやりの気持ちもてるよう、心を育む教育を重視してほしい。
 - ・健康でたくましい子どもになってほしい。

指導に関わる具体的な取り組み **学校経営方針(学力向上の視点から)**

(1) 基礎学力の定着と分かって楽しい授業への工夫改善を継続する

- ・指導方法の工夫改善を常に行い、基礎学力の向上を図る。
- ・児童の自己評価、学習のふり返りによってメタ認知力向上と評価への活用を行う。
- ・教えること、児童に考え工夫させることの両面から指導する。「どうして」の発問を増やし、児童の思考力、問題解決能力を向上させる。
- ・外部指導者の積極的な活用を図る。
- ・家庭学習を充実させる。(自主学習の推進・ミライシードなどICT機器の活用を推進)

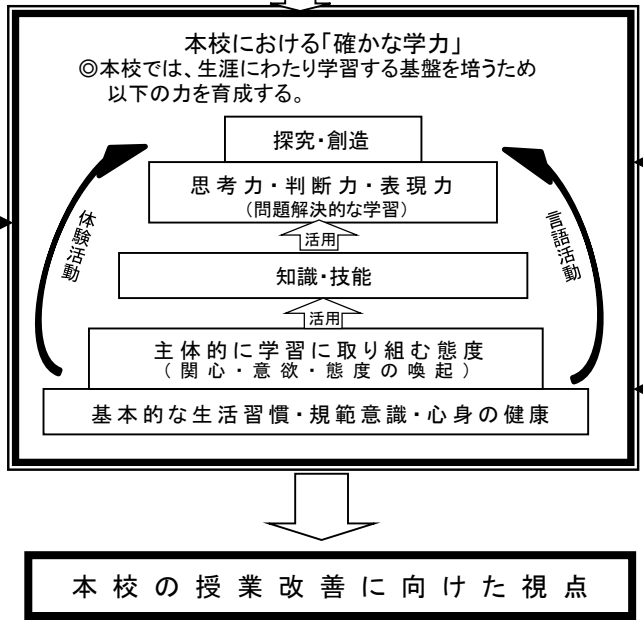
(2) 生活科と総合的な学習の時間でESDの指導充実を図る

- ・カリキュラム・マネジメントを活用し、教科との横断的な指導を行う。
- ・地域の森林などの自然環境や文化を活かしたESDを実践し、活動意欲や思考力・判断力・表現力とメタ認知力の育成を図る。
- ・グループ活動やシナギヤなどの動物飼育を活用して活動の充実を図る。

(3) 読書指導と情報教育を充実させる

- ・図書の時間を授業時数として確保する。
- ・読字に着目し、朝読書や保護者による読み聞かせ等を活用して読書指導の充実を目指す。
- ・タブレットPCや、電子黒板を活用した授業を必要とところでを行い、情報活用能力を向上させる。

- 教科の指導の重点**
- ・学力向上委員会を中心として、授業改善推進プランに沿って基礎的・基本的な学力の習熟を図るとともに、東京ベータ・ドリル診断シートや学力向上を図るための調査、全国学力学習状況調査等で成果を検証し、指導改善に生かす。
 - ・習熟度別少人数指導、デジタル教科書、アプリ版東京ベータ・ドリル、ミライシード、地域未来塾を活用して個に応じた指導を行うとともに、自主学習を用いて家庭学習との連携を行うことで、学習意欲の向上と基礎的・基本的な学力の習熟、学びに向かう力・人間性等の涵養を図る。
 - ・1人1台タブレット端末を、反復学習や検算、記録、フレーズ、プログラミング教育に積極的に活用し情報収集力や論理的思考力、他者と協力するための表現力を高めるとともに、AI思考に向けたICTスキルや情報モラルを計画的に指導する。
 - ・市立図書館や学校図書館司書と協力した並行読書を推進し、読み聞かせや朝読書、読書旬間を設定することで児童の読書意欲を高めると同時に、問題解決力に不可欠な言語能力を向上させる。
 - ・体験活動、探究活動、表現活動を意図的に学習過程に取り入れ、各教科と生活科・総合的な学習の時間を中心とした教科等横断的な学習により、未知の状況にも対応できる思考力・判断力・表現力を育成する。
 - ・授業のねらいを明確にし、振り返りを工夫し、eポートフォリオを蓄積することで、「何ができるようになったか」を児童がメタ認知できる授業改善に、校内研究や若手研修会、相互授業観察を活用して日常的に取り組み、児童に生きて他「知識・技能」を習得させる。
 - ・一校一取組「一学級一実践」や個人目標を設定した東京都児童・生徒体力運動能力、生活・運動習慣等調査、全国体力・運動能力、運動習慣等調査を通して、運動能力を向上させる。
 - ・外国語科において、話すことややり取りを重視し、専門性のある講師の指導とALTの活用を通してコミュニケーションを図る意欲や態度、能力を高める。



- 生活科・総合的な学習の時間の重点**
- ・探究的にESDを実践し、持続可能な社会の担い手として必要な6つの力「環境や社会の仕組みを理解する」「学び方を身に付ける」「課題をつかみ、考え判断し解決する」「価値を見出し思いや考えを伝える」「人・自然・社会に関心をもち意欲的に関わる」「協力してよりよい社会をつくらう行動する」を育成し、SDGsと授業の成果を関連付けて児童の活動を価値付けする。
 - ・ESDのカリキュラムを基にカリキュラム・マネジメントを実施し、総合的な学習の時間と教科の内容理解を相互に深め合い、課題発見力、多面的思考力、問題解決力、発信行動力を高める。
 - ・地域学校協働本部を活用して、地域の豊かな自然環境、国内の学校、大学、専門家、障がい者、高齢者、地域、保護者、企業、CSO（市民社会組織）と関わりながら充実した体験活動と探究学習を実施し、環境保全意識を高めるとともに、郷土愛を醸成し、持続可能な社会の形成に参画しようとする価値観を育成する。
 - ・小中9年間で育成する資質・能力・態度の段階表を学習計画に生かし、ホールスクールアプローチで実践する。そのためのESDの工夫改善に継続的に取り組む。
- 進路指導の重点**
- ・キャリア教育の視点に立ち、「自己実現」を積み重ねることで、現在や将来に希望や目標をもって生きる意欲や態度を育成する。キャリア・パスポートを作成し、成長の自己理解と活動の深化を図る。
 - ・近隣小中学校との交流や情報交換、及び各校合同引取訓練を通して、連携の強化を図る。
 - ・温かな人間関係を基盤とした学級経営を行い、児童一人一人に寄り添った指導を実施するとともに、いじめに関わる授業及び「人権教育プログラム」等を活用したいじめに関する職員研修（重大事態の理解と対応、いじめ防止の理解・事例研修、いじめの総括と対策の課題）をそれぞれ3回行う。
 - ・地域や関係機関と連携した学校防災訓練を実施し、「防災ノート～災害と安全～」や「東京マイタイムライン」等を活用しながら自然災害から身を守るとともに、進んで地域の安全を支えることができる能力を育てる。

本校の授業改善に向けた視点

- ◎各教科の指導計画の改善の視点を入れた見直し
- ①繰り返し学習の時間確保等による、基礎的・基本的事項の習得を徹底させる。
 - ②問題解決型学習を展開し、知識・技能の活用、日常生活との関連を図った学習活動を重視する。
 - ③発表の機会の増加や児童同士の関わり、ICT機器の効果的な活用など、言語活動の充実を図る授業を工夫し、主体的・対話的で深い学びを実践する。
 - ④課題を提出することを習慣化させ、徹底させる。
 - ⑤朝学習や朝読書、休業中の補足的な学習の時間を確保する。
 - ⑥児童の自己評価を取り入れ、児童が自己の成長を実感し、次の活動の意欲につながることに、指導改善に生かす。
 - ⑦授業改善とともに、家庭学習を充実させ、各学年とも4月の保護者会で家庭学習の取組みを保護者に周知し、基礎的・基本的な内容に加えて、自主学習への取り組み、ミライシードなどICT機器の活用を図る。

本校の児童の学力における実態

- ◆全体的な様子
- 素直で明るい。
 - 落ち着いて学習や生活に取り組むことができる。
 - 目標や、やるべきことが決まると熱心に取り組める子が多い。
 - 自ら考え、主体的に行動することを苦手とする児童が多い。
- ◆学びに向かう力・人間性等
- 得意な学習に対する関心・意欲は高い。
 - 学習したことをまとめたり、日常生活に生かそうとすることが苦手である。
 - 学年が上がるに従い、自ら発表することを苦手とする児童が増えている。
- ◆思考力・判断力・表現力等
- 個別の情報を読み取ることはできる。
 - いくつかの情報を読み取り、比較したり、総合的に判断したりすることが苦手である。
 - 与えられた複数の要因・情報から必要な情報を取り出し、多面的な視点から考察し、自分の言葉でまとめ、表現することが苦手である。
 - 図や式で考え方を表現したり、根拠を基に考えを表現、解決したりすることが苦手である。
- ◆知識及び技能
- 相手や目的を意識し、それに応じて工夫して書くことができる。
 - 観察、実験等の器具・用具の基本的な使い方は理解している。
 - 基礎・基本の定着が十分でない児童がいる。
 - 既習漢字の活用や文と文のつながり方、文末表現の使い方に注意して、よりよい表現にすることが苦手である。
 - 複雑な資料や文章問題の読み取り、解決、要旨の把握などが苦手である。
 - 複数の条件が重なると、基本を応用できなくなることが多い。
 - 日常生活であまり使わない漢字の読み書きや語句の意味、関係性への理解が十分でない児童がいる。
 - 学習した知識と生活体験とを結び付けて考えることが苦手なため、既習内容を活用できていない児童が多い。
- 2月検証予定